

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073300263
法人名	有限会社 ゆたか公司
事業所名	グループホーム ゆとり苑
所在地	福岡県宗像市陵巖寺二丁目29番6号 (電話) 0940-38-0551

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 7月 31日	評価確定日	H21年 9月 14日

【情報提供票より】 (平成21年7月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 12月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤	13人, 非常勤 12 人, 常勤換算 20.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(80,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(40,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年7月14日現在)

利用者人数	27 名	男性	1 名	女性	26 名
要介護1	9 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	船津医院 山根眼科 竹村歯科医院 宗像病院 赤間病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山の麓にあり、緑があふれ小鳥のさえずりが聞こえる住宅街の中に位置する事業所である。質の高いケアを実施するため職員教育に力を入れ、段階に応じてスキルアップできるよう研修を実施している。ユニット毎に利用者の状態に合わせた目標を立て、利用者主体のサービス提供や地域交流を重視した支援を管理者や職員が一同となって心がけ実践している。理学療法士によるリハビリを実施し、職員が継続して支援を行うことにより自宅復帰を遂げたり、ADL(日常生活動作)が改善した事例がある。地域交流担当者を配置し、地域との交流が自然体で活発に行われ、近隣の住民と顔なじみで親密な関係が構築されている。書類やマニュアル関係も整備されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告している。委員が率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。意見や要望は、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。家族会があり、来訪時を含め、いつでも意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや声かけに努めている。モニタリング記録用紙に家族の意見欄を設ける等、意見を運営に反映させている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・自治会に加入している。地域交流担当者を配置し、地域の夏祭りへの参加や近隣の幼稚園・中学校と交流、事業所主催の催しを開催する等している。地域に機関紙を配布し、また事業所内の地域交流施設を開放して、積極的に地域と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生活を共にし、心を支え、人間らしく生きることを支援」という事業所独自の理念の中に「地域の中で暮らし」という地域密着型の視点がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について朝礼時に唱和し、毎月の職員会議で具体的に考える等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・自治会に加入している。地域交流担当者を配置し、地域の夏祭りへの参加や近隣の幼稚園・中学校と交流、事業所主催の催しを開催する等している。地域に機関紙を配布し、また事業所内の地域交流施設を開放して、積極的に地域と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、管理者が集約している。前回評価での改善課題は無いが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告している。委員が率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。意見や要望は、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携を密に取っている。サービスに関する課題の話し合いを行い、課題解決に向けて協働し、また介護講座の受託等を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は制度について内部・外部研修で学ぶ機会があり、報告及び伝達講習で共有化を図っている。パンフレット・研修記録・報告書がある。家族へは家族会で説明している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶりや行事の様子、職員の異動等を報告している。家族来訪時は状況報告し、緊急時等は電話で対応している。金銭出納帳は、月1回コピーを郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族会があり、来訪時を含め、いつでも意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや声かけに努めている。モニタリング記録用紙に家族の意見欄を設ける等、意見を運営に反映させている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるように努めている。日常的にユニット間で交流し、職員が代わる際は引き継ぎの期間を十分に取り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく適性を重視している。ユニット間で能力や経験年数のバランスを取るよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>虐待防止委員会を設置し、利用者の人権を尊重するための内部研修を行っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で、職員一人ひとりの段階に応じた研修プログラムを計画して実施している。研修内容は、全職員が共有できるように報告会を行っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入し、管理者や職員は、2ヶ月に1回会議に参加している。他事業所と相互に意見交換や事例検討等を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、見学や自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。時間をかけて話を聴く等コミュニケーションを重視して、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や畑の水やり等を共に行い、過去の体験や暮らしの知恵等、職員が知らない知識を利用者から教えてもらう場面がある。利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を利用者の言葉や表情・行動等から把握し、支援している。本人の希望や意向の把握が困難な場合は、家族から生活歴等を聴取して本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴や家族の意見及び毎月行うモニタリングで、個別具体的な介護計画を作成している。家族が了承した署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直し、状態が変化した場合はその都度見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、見舞いに行き、医療機関・家族と密に連携を取り、早期退院へ向けて取り組んでいる。通院や送迎等の必要な支援は、本人や家族等の状況に応じて柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診に際しては、事業所での状況報告書を病院へ提出し、病院から報告書に結果を記入してもらう等の工夫がある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期について事業所独自の対応方針があり、契約時に家族と話し合っている。看取りについては、状態に応じて家族、かかりつけ医、全職員が話し合い、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は全て鍵のかかる棚に保管し、プライバシーに配慮した声かけや介護を行っている。毎月の職員会議で職員の言葉遣いや態度について確認する等、職員の意識向上に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日のスケジュールはあるが、利用者の希望やその時々々の体調に応じて散歩や買い物等を、一人ひとりの希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けを行っている。職員はさりげなく見守りを行いながら、利用者と一緒にテーブルで同じものを食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間は設けているが、利用者の希望に応じて支援している。入浴拒否をする利用者に対しては時間帯をずらしたり、家族にお願いして声かけしてもらおう等、工夫して対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の個性や特技を把握して、漬物や食事の準備、活け花等、役割や楽しみごとの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や一人ひとりの状態や希望に応じて、散歩や買い物・ドライブ等を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関は利用者の状態や立地条件でやむを得ず施錠しているが、家族への説明を行い、同意を得ている。職員は利用者の外出傾向を把握し、声かけする等工夫している。	○	利用者の安全を考慮しながら様々な工夫をし、施錠の頻度を少なくしてほしい。
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルがある。年3回、消防署の協力による避難訓練を実施し、地域住民へは参加協力を呼びかけている。	○	非常用食料や飲料水、備品の準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は、栄養士が利用者の嗜好を考慮して作成している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は各ユニットに行事の写真や生け花等を飾り、生活感や季節感を採り入れている。窓からの光、テレビの音声、職員の声は利用者が不快に感じないように配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔に保たれ、使い慣れた家具や小物が持ち込まれている。季節によって、籐の椅子等の家具を入れ替えをする等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※      は、重点項目。